

地域共生社会の実現に貢献する ～ 地域に貢献するJAをめざして ～

株式会社JAぎふ（特例子会社）



はっぴいまるけ

SDGs

貧困・飢餓・気候変動など人類・地球全体が直面する問題を解決し「持続可能」な世界を実現するために、2030年までの達成を目指して世界各国で取り組みが進められています。



公式 Facebook



公式 Instagram



2020年7月単位農協初の特例子会社として設立



JAぎふについて

総面積約994 k㎡
(岐阜県総面積10,620 k㎡)

管内人口 約80万人
(岐阜県人口200万人)
世帯数 約31万世帯



岐阜地域 (6市3町)
岐阜市・各務原市
羽島市・瑞穂市
本巣市・山県市
岐南町・笠松町・北方町

県下には7つのJA



長良川鵜飼



淡墨桜



J R 岐阜駅前



中山間地域

JAぎふについて

- 設立 昭和38年9月4日
(平成20年4月合併)
- 本店所在地 岐阜県岐阜市司町37

●組合員戸数	82,467戸	●貯金残高	1兆483億円
●組合員数	100,226人	●貸出金残高	2,237億円
うち正組合員	40,808人	●長期共済保有高	1兆9,281億円
うち准組合員	59,418人	●販売品販売高	81.5億円
●役員数	52人	●購買品供給高	58.7億円
うち常勤役員	5人		
●職員数	1,034人		
うち正職員	997人		
●店舗・事業所等	本店・53支店		
●子会社	(株)援農ぎふ JAぎふ総合サービス(株) (株)JAぎふはっぴいまるけ		

令和4年3月末現在



おんさい広場・朝市グリーンなど
(大型産直施設3か所を含む14店舗)

JAぎふイメージキャラクター「みのっ太」は6地域の特産品で誕生!!



エダマメ
(岐阜地域)



徳田ねぎ
(岐阜南地域)



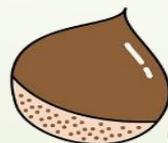
アスパラガス
(羽島地域)



富有柿
(本巣地域)



ニンジン
(各務原地域)



利平栗
(岐阜北地域)



からだはJAぎふ
管内の特産品で
できているんだ♪

JAぎふイメージキャラクター
みのっ太

略歴 高橋 玲司

- ▶ 1969年（昭和44年）生 55歳
- ▶ 岐阜市農協入組23歳⇒広域合併により ぎふ農協
- ▶ 営農担当（肥育牛、柿）⇒販売兼金融渉外⇒共済専任渉外（総合県下一位）
⇒共済インストラクター⇒支店次長融資9年⇒改革推進室長⇒協同活動課長
- ▶ 食農教育、営農組合の設立、青年部による婚活活動など
改革推進室でJAぎふの自己改革（新規事業の企画・立案）
- ▶ H28より自己改革の一環として特例子会社の設立を検討
- ▶ R元年より特別プロジェクト発足⇒令和2年4月より開設室の設置
- ▶ ⇒令和2年7月子会社発足
- ▶ ヒマラヤ登山6回（未踏峰6627m初登頂、8000m峰無酸素登頂など）
- ▶ 現（公社）日本山岳会東海支部支部長 登山ガイド



▶ 8000m峰無酸素登頂



▶ 青年部婚活

ノウフク・アワード2021

はっぴいまるけ フレッシュ賞受賞



みんなで耕そう！
人・地域・未来の豊かな循環

新しくフレッシュ賞とチャレンジ賞を創設 ノウフク・アワード 2021

農林水産業

×

福祉

=

ノウフク

農業(林業や水産業等も含む)と多様な人が連携することで、持続可能な共生社会をうみだすノウフク(農福連携等)が、全国で拡大しています。農林水産業においては、次世代を担う人づくりや耕作放棄地の活用など、産業の維持・発展につながるものとして、障がいがある人をはじめとする多様な人材においては、個性を活かした社会参画や、役割と居場所づくりを後押しするものとして、そして、地域に暮らすすべての人の、持続可能な生活と経済をつくり支える力になるものとして、ノウフクが生み出す価値に大きな期待が寄せられています。ノウフク・アワード 2021ではノウフクの多様な事例を発掘・表彰し、その輪の拡大を図り、新たな知恵や気づきを社会に発信します。

設立2年目、特例子会社として初！
岐阜県初の快挙！

ノウフク・アワード2024

はっぴいまるけ 優秀賞受賞



二度の受賞は岐阜県初の快挙！

ノウフク・アワード2024 優秀賞

「ノウフク・アワード2024」表彰22団体

グランプリ

- ①株式会社菜々屋 (徳島県徳島市)
 ・農業法人4社が共同して障害者就労施設を立ち上げ、県内の各農協と連携して、県内全域の農家で施設外就労を行い、農業経営の効率化や規模拡大に貢献。
- ②一般社団法人STEP UP (宮崎県宮崎市)
 ・障害者就労施設が農業生産法人を立ち上げ、障害者・刑務所出所者の就労や生活の安定に向けた支援を行うとともに、認定農業者として地域の農業に貢献。

準グランプリ (地域を耕す)

- ③株式会社コトモファーム (愛知県犬山市)
 ・米の生産・加工・販売を一貫して行うとともに、地域内外の企業や障害者就労施設等と連携したバウムクーヘンの開発・販売等を通じて、誰ひとり取り残さない居場所を創出。

準グランプリ (未来を耕す)

- ④株式会社八天堂ファーム (広島県三原市)
 ・障害者を含む生活困窮者の自立支援に向けて、果樹栽培、他の事業者の農福連携商品も含めた商品開発、加工・販売など、「商工農福連携」をめざした取組を実施。

準グランプリ (人を耕す)

- ⑤NPO法人熊本福祉会 (熊本県熊本市)
 ・荒廃農地の活用、6次産業化の取組、障害者・刑務所出所者の職員としての雇用を行うとともに、農福連携の地域協議会を設立し、農業法人・JAや企業と連携して、地域ぐるみの取組を実施。

優秀賞

- ⑥青森県弘前市
 ・農業者と障害者等のマッチングに取り組み、独自のマニュアルや支援制度等を整備。不登校傾向等のある児童や特別支援学校の生徒向けの農業体験も実施。
- ⑦株式会社バラの学校 (ナカイローズファーム) (山形県村山市)
 ・除草剤を使用せず無化学肥料で食用バラを栽培し、施設外就労を活用して生産規模を拡大し、花きで初となるノウフクJASを取得。農福連携に取り組む食用バラ農家の育成を実施。
- ⑧埼玉県立特別支援学校羽生ふじ高等学園 (埼玉県羽生市)
 ・農業コースの生徒が農業者の指導による農産物の生産、企業等との連携による新商品の開発・販売を通じて、農業への知識・技能を深め、社会に貢献できる人材育成をめざす取組を実施。
- ⑨株式会社JAぎふはっぴいまるけ (岐阜県岐阜市)
 ・JAぎふの特例子会社として、荒廃農地での農業再生に向けた取組、ユニバーサル体験農園の実施、地元企業と連携した特産品の開発などで地域に貢献。

優秀賞

- ⑩社会福祉法人 ステップ・ワン (静岡県御殿場市)
 ・障害者就労施設が、水耕栽培に取り組み、毎日安定出荷することで高工賃を実現。地域のスーパーとの取引拡大により、第2農場を建設するなど規模拡大を実現。
- ⑪社会福祉法人小国町社会福祉協議会 (熊本県小国町)
 ・荒廃農地を活用した大豆栽培、豆腐製造、おからを餌にした養鶏事業、食肉加工、直売所やレストランの運営等の多角化により、障害特性に応じて働ける場を創出。
- ⑫竹福商連携による竹の資源化モデルの構築と実践 (鹿児島県大崎町)
 ・障害者就労施設、加工業者等が連携し、地域の高齢者や障害者が放置竹林の整備や竹炭の製造を行うモデルを創出。竹炭を土壌改良材として活用したサツマイモの加工により収益化を実現。

フレッシュ賞

- ⑬ちば東葛農業協同組合 (千葉県柏市)
 ・組合員と障害者就労施設とのマッチングにおいて、作業内容と対価をJAが調整することで年間80件のマッチングに拡大。JAの部会で初となるノウフクJASを取得。
- ⑭岐阜県立岐阜本巣特別支援学校 (岐阜県岐阜市)
 ・農業地域にある特別支援学校として、農福連携の取組を開始。生徒が主体となり、遊休農地等を活用し、生徒が栽培しやすい特色のある『ルビー色の蕎麦』や『イタリア野菜』を生産。

佐賀県

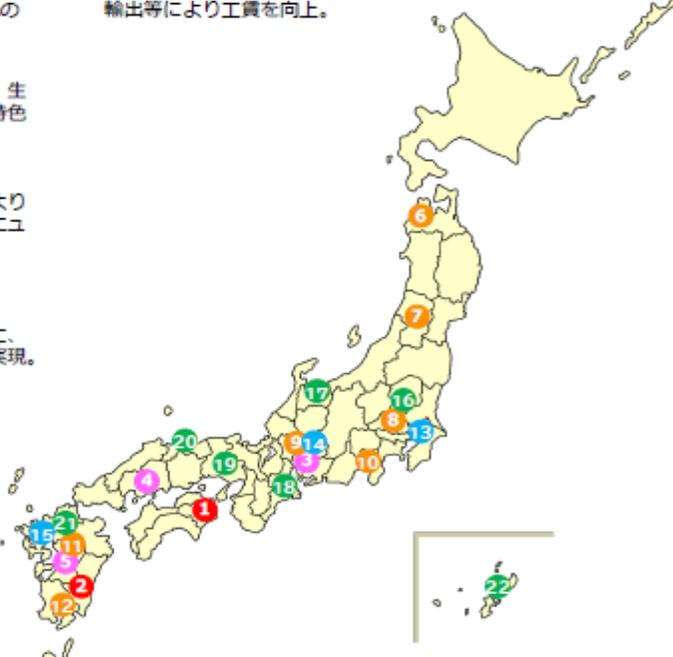
- ・農業者と障害者就労施設のマッチングやその後のフォローにより農福連携が県全域に拡大。農業者の理解促進やマッチングマニュアルの作成により中間支援の質を向上。

チャレンジ賞

- ⑮社会福祉法人めぶき会 (栃木県小山市)
 ・観光農園を営むグループ企業のいちご栽培を請け負うとともに、自社のキッチンカーやクレープ店での活用により、高収益を実現。
- ⑯社会福祉法人 フォーレスト八尾会 おわらの里 (富山県富山市)
 ・地域に伝わる桑栽培のリブランディングとして、伝統工芸である和紙のパッケージによる商品開発、剪定枝のバイオマスプラスチック化等により工賃を向上。
- ⑰株式会社ケアプロフェッショナル (三重県伊勢市)
 ・放課後等デイサービスを運営する中で、障害者が社会参加できる場として農業参入。ワイン専用欧州ぶどうの栽培からワイン製造まで全て自社で実施し、国際交流にも発展。

チャレンジ賞

- ⑱社会福祉法人上野丘さつき会 (兵庫県神戸市)
 ・1981年から農福連携を開始。地域の農業者の高齢化により作業受託面積を拡大し、草刈り機の操縦等にも障害者が従事。竹林の伐採・竹出し等も実施。
- ⑲NPO法人ライヴ (鳥取県米子市)
 ・地元漁師と連携し日本海産の海藻・魚介類を乾燥加工して販売。作業請負からの転換で工賃向上を実現。製品化までの全工程に障害者が携わることで自身の充実感・達成感も向上。
- ⑳社会福祉法人ハイジ福祉会 フラワーパッケージセンター (福岡県八女市)
 ・JAの部会との委託契約により花きのパッケージセンターを運営し、地域農業の維持・発展に貢献。認定農業者となり自社生産も実施。
- ㉑株式会社沖縄UKAMI養蚕 (沖縄県今帰仁村)
 ・荒廃農地や廃校を活用し、沖縄ワリ蚕の大規模養蚕を実施。繭の分別作業を障害者就労施設に委託し、スキング用品への加工や輸出等により工賃を向上。



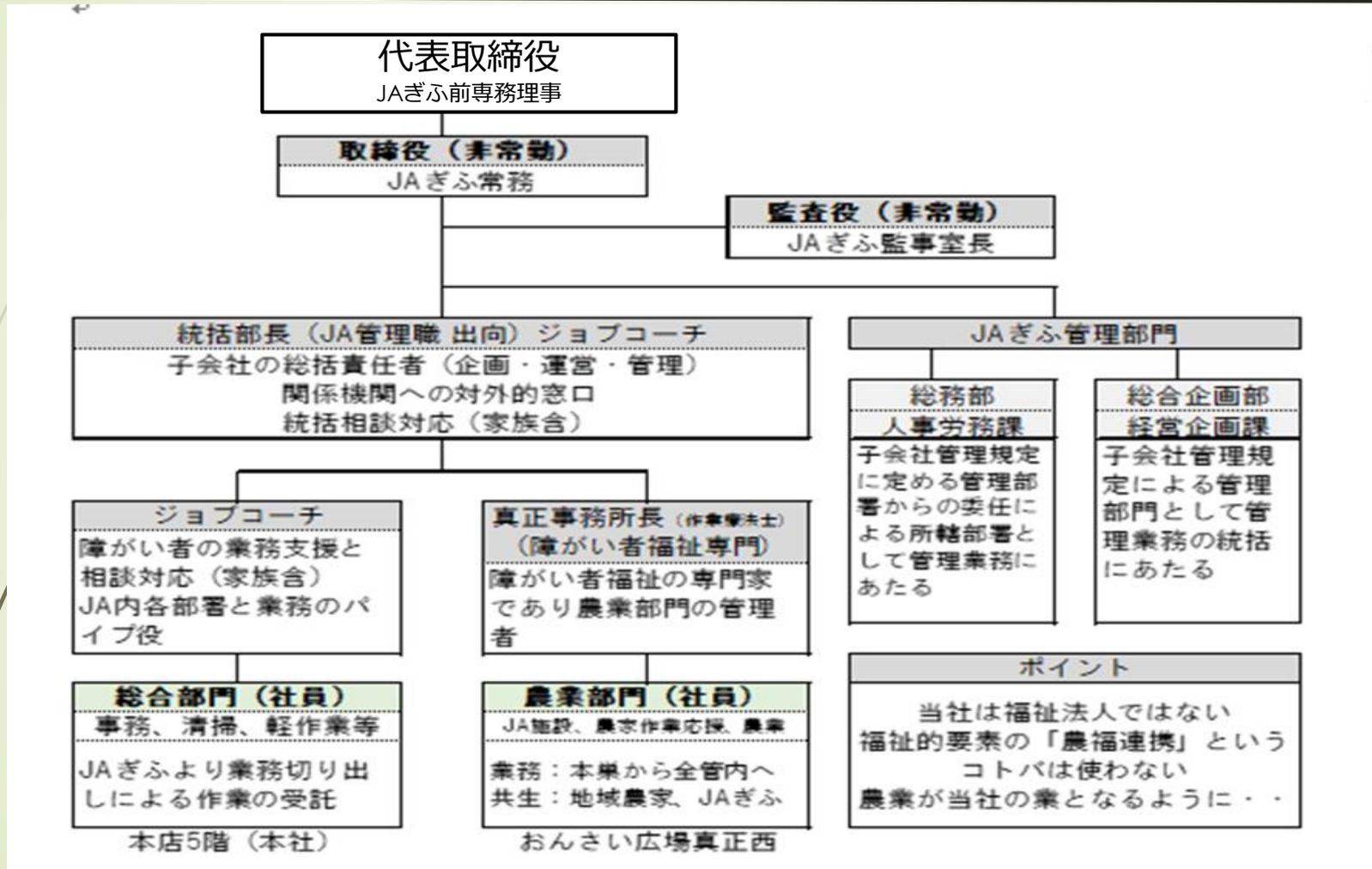
- 所在地：本部 岐阜市（本巢市真正事務所）
- 社員：21名
管理者4名、障がい者16名
内訳：身体0・知的4・精神12
健全者1
- 事業内容：JAぎふ委託事業、農業、味噌生産販売など

障がい者雇用状況（カウント数）

令和4年度

	JAぎふ	はっぴいまるけ	合計
身体障がい者	20人	2人	22人
知的障がい者	0人	8人	8人
精神障がい者	1人	11人	12人
	21人	21人	42人
職員数	1241.5人	17人	1258.5人
雇用率	3.34%		

組織体制図等



社員の勤務地

有機の里
ガラスハウス

まめなかな味噌
製造加工施設

直売所：おんさい鷺山
バックヤード1名

真正事務所（まるけふあ〜む）
農業班 5名
管理者 1名

JAぎふ巣南支店
営農事務 1名

管理者が担当制で、週一回以上巡回
給料日巡回（部長）
定期面談（家庭訪問・三者、四者面談）
メール、Line）

JAぎふ本店勤務

清掃	5名
印刷	2名
事務	2名
管理者	2名

直売所：おんさいはぐり
バックヤード 2名



雇用の取り組み

適所適材の人事

個性最大限発揮できるように、適所に適材を働いてもらえる工夫

○安定した雇用態勢

- ・ 保護者面談の実施⇒3者面談として、年間1回以上実施 全員の家庭訪問
(障がいの原因が親や身内にある場合が多い為。家庭環境の把握は重要)
- ・ 定期面談の実施⇒スタッフ3名が障がい者19名それぞれ担当制とし全員への面談を月1回以上実施
- ・ ジョブコーチ資格⇒管理者3名全員の資格取得し業務指導
- ・ 関係支援団体との連携（就業・生活支援センター、職業センター、出身の就労支援事業者など）
⇒生活支援になった場合、緊密な連携関係の構築が重要

柔軟な雇用態勢

- ・体調などを考え超短時間労働の施行
(週二回3時間、週二回6時間)
- ・5時間、6時間、7.5時間、8時間
(体調、支援団体、保護者等と相談の上決定)
- ・半年雇用、一年雇用、期間の定めのない雇用
(状態と勤務実態に応じて)
- ・時給制～月給制へ⇒プレイングマネージャー

仕事の内容

JAぎふ業務応援

清掃



事務、印刷



JAぎふ産直所「おんさい広場」

おんさい広場はぐり店に2名、鷺山店に1名勤務しています。
袋詰め、陳列など戦力として働いています。



JAぎふ施設応援

枝豆選果場



ライスセンター



LED人工照明苗事業

本店勤務社員にて生育管理



本店軒先にて毎週販売



販売イベント

➤ 信長まつり

➤ 農福連携マルシェ



• まるけふあ〜む



➤ ひまわりフェア

味噌事業

味噌作業

女性部さんより、伝統の味噌事業の事業継承
直売所で入荷待ち状態！
出せば売れるヒット作で、収益確保
県の助成で加工所新設！



味噌加工所の利用

岐阜県:新商品開発を通じた農福連携PR委託業務として認定

- ・ えだまめ農家より出荷となる枝豆から、規格外となるえだまめをJAで買い取り

農家⇒JAぎふ⇒JA全農岐阜⇒(株)JAぎふはっぴいまるけ⇒(株)セレス
⇒養老軒にて加工販売（ずんだ大福）



岐阜ずんだ大福





農業の実践

真正事務所

作業療法士で、B型事業所『ウェルファーム』経営の**服部努**氏に所長を依頼。事業所との業務連携、農作業を通じて、農福連携の実践・・・



農業

1町歩、1,000m²の自作農地社員研修や農園として活用
水稲も挑戦（令和5年度より有機栽培も実施）



農業



労働力不足に向けて

組合員の皆様へ

農業×福祉で地域も人も元気！

のう りく れん けい

農 福 連 携

農福連携を
活用してみませんか？

農福連携とは…

「働く人を求めている」農業と、障がいのある方が活躍できる「働く場を求めている」福祉をつなぐ取組です。

福祉施設に農作業の一部を委託することで、農家は労働力不足の解消に、障がいのある方は工賃の向上や施設外での働く場の確保に繋がっております。

どんな作業をお願いできるのか…

【作業事例】

- トマトの下葉抜き
- 選別された果の箱詰め、出荷用パレットへの積込
- キャベツ畑の草抜き
- にんにくの根切り
- 柿の収穫
- 柿の剪定枝拾い など

【感想・評価】

- 真面目に作業をして頂けた
- 来年度も引き続き委託したい
- 別の作業も委託したい など






農業と福祉のマッチングをサポートします

組合員 JAぎふ 就労継続支援事業所等

相談・マッチング料は無料

相談の流れ

- ①営農経済センター職員へ相談(窓口)
- ②訪問面談(1回目)

訪問者 ・JAぎふ子会社「(株)JAぎふはっぴいまるけ」
・ぎふ農福連携推進センター
・JAぎふ職員

面談内容 ・農福連携のご説明
・委託したい農作業のヒアリング
- ③訪問面談(2回目)

訪問者 ・JAぎふ子会社「(株)JAぎふはっぴいまるけ」
・ぎふ農福連携推進センター
・委託を検討したい就労継続支援事業所等

面談内容 ・委託農作業の細分化と振り合わせ
- ④就労継続支援事業所等の利用者による体験実習
利用者が実際に作業できるか就労継続支援事業所等が確認するため、必要に応じて実施します。
- ⑤委託内容の合意及び委託契約の締結
委託契約は、組合員と就労継続支援事業所等の間で直接締結して頂きます。
※委託契約とは、自社業務等を外部の企業や個人に委託する契約のことです。
業務上の指示は同行する施設職員に行い、利用者へは直接指示する必要はございません。
- ⑥アフターフォロー
「岐阜県農業ジョブコーチ」等が、作業内容や障がい者との接し方等に対する助言及び支援を行います。

～(株)JAぎふはっぴいまるけの紹介～
JAぎふが100%出資する、単独農協では全国初の特許子会社です。
知的・精神・身体などの障がい者が農福連携を実現しております。

～(一社)岐阜県農畜産公社の紹介～
「ぎふ農福連携推進センター」の紹介～
農福連携のワンストップ総合窓口として、障がい者や生きがいを有する共生社会の実現を目指して活動しております。

岐阜県農業ジョブコーチとは…
農福連携に携わり組合員農業者等を、農業現場で支援する専門人材です。障がい者との接し方や作業指示の方法、労務の工夫等について、(株)JAぎふはっぴいまるけの社員が助言及び支援を行います。

助成事業

ぎふ農福連携推進センターでは、「障がい者の受入体験に対する助成」、「経営改善につながる環境整備に対する助成」など、農福連携に関する助成事業を行っております。

お問い合わせ先

委託農作業の内容や就労継続支援事業所等に関する相談
⇒(株)JAぎふはっぴいまるけ TEL:058-265-3521
※JAぎふ代表電話にて対応後、担当者にお繋ぎします
(一社)岐阜県農畜産公社 ぎふ農福連携推進センター TEL:058-215-1503

助成事業の詳細はこちらから



農福連携部門 農福連携推進活動事業 (助成事業)のホームページ

草刈り作業

組合員の困りごと解決の為に

農地の除草作業。



空き家の敷地の草を伐採。



草刈り・草取り 作業代行します

ご相談・お見積無料・出張相談可

対応エリア：JAぎふ管内

基本料金表(税別)

草刈り(草刈機)		除草剤 散布作業 (除草剤代別)		草取り(手作業)		伐採作業
1a	3,000円~/1人	1a	1,000円	1時間	1,500円~/1人	要相談

※交通費・処分費は各作業現場にて要相談となります

※機械刈り(10a～)…12,000円~/も承ります

過去の作業事例



(例)上記作業(3a)…草刈り9,000円+除草剤3,000円+交通費ほか5,000円=17,000円(税別)

※ご依頼の内容によってはお断りする場合がございます※



(株)JAぎふはっぴいまるけ

〒501-0465 岐阜県本巣市穂海字千束353-1
 ☎ 058-323-1501 または 058-265-3521(本部)
 ✉ happymaruke@gmail.com
 HP <http://happymaruke.jp>



自社農園を使った取り組み

魅せる取り組み

共生社会の実現をめざして

【ユニバーサル体験農園】

ユニバーサル農園の開設イメージ

多様な
開設者

NPO法人
社会福祉法人
民間事業者
農業者
都道府県
市町村 等

開設

市民農園(農業体験農園)の形態で開設

見込まれる効果

※事業で支援する場合は職業訓練的な農業体験の提供が必須

社会参加を促す効果(職業訓練、協同体験の場)

就農へのチャレンジに向けた技術を習得する場(職業訓練的農業体験の場)や、農作物の栽培や販売、それらを通じた協同体験を通じ、ひきこもりの方など働きづらさを抱える若年・現役世代の社会参加の場を提供

予防・リハビリの効果(生きがいづくり)

農作物の栽培や販売、利用者同士の交流による生きがいづくり等を通じ、介護予防や、高齢者、障がい者等の健康増進・社会参加を図るとともに、高齢者、障がい者等へのケアのためにリハビリ等の場を提供

癒しを提供する効果(精神的健康の確保)

農業の持つ癒しの効果を通じ、精神的不調により休職している社員等のリワークなど、企業の社員等の精神的健康の確保を図る機能を提供

学びを促す効果(農業体験の場)

学生ボランティア等の参画や学校からの協力を得て、子どもが農業を体験的に学ぶ場の提供や、生産された農産物の子ども食堂等への提供を通じた食育の機会を提供

多様な
参加者

幅広い
参加・
農地の
利用

高齢者
障がい者
困難を抱える若
年・現役世代
学生ボランティア
子ども



障がい者向け農園 まるけふあ〜む

田植え



社員も一緒に作業





株式会社JAぎふ
はっぴいまるけ



障がい者向け農業体験

まるけふあ〜む

参加者募集のご案内



開催の概要

開催場所

おんさい広場真正 西隣（はっぴいまるけ真正事務所）
本業市経海千歳353-1 ※無料駐車場あり

募集人員

30名（定員になり次第締め切りとさせていただきます）

参加条件

障がいを持つすべての方（一人での作業が困難な場合は、
保護者の方も一緒に参加をお願いします）

参加費用（全5回分）

参加者10,000円、保護者5,000円
（体験代・資材代・保険代含む）

申込締切

5月31日（金）まで



年間スケジュール

【第1回】

6月15日（土） 田植え体験



農作業の後は
毎日お楽しみ
イベント開催！

【第2回】

8月3日（土） まくわうり収穫体験

【第3回】

10月5日（土） サツマイモ掘り体験



【第4回】

10月19日（土） 稲刈り体験



【第5回】

11月16日（土） 修了式・はっぴいマルシェ

※各回とも朝9:00～11:00頃の開催を予定しています。
※雨天の場合は、屋内での作業へ変更となる場合があります。

《お申込み方法》



申込書（<http://happymaruke.jp/farm2024.html>）へ必要事項をご記入の上、ご送信ください。
内容確認後、折り返し担当者よりご連絡をさせていただきます。

《お問合せ》

JAぎふ はっぴいまるけ
〒500-8076 岐阜市司町37
TEL：058-265-3521（担当：高橋・森）
E-mail：happymaruke@gmail.com

株式会社JAぎふはっぴいまるけとは

2020年7月1日地域共生社会の実現を目指し設立された、JAぎふ100%出資の特例子会社（JAでは初）で、知的・身体・精神など15名の障がい者が一般就労として働いています。



株式会社JAぎふ
はっぴいまるけ

業務内容は、農作業（まくわうり・じゃがいも・さといもなど野菜の栽培）、JAぎふ作業補助（清掃・印刷・事務・支店勤務・おんさい広場勤務）、「まめなかな味噌」製造、LEDによる苗栽培、農家さんへのお手伝い…などなど、さまざまな業務を行っています。



その取り組みが認められ、2022年3月に農林水産省が中心となり地域において農業と様々な人の連携を推進し、地域社会への貢献や、新たな価値の創出をしている団体・企業・事業所・個人に贈られる『ノウフクアワード2021』フレッシュ賞を受賞しました。これは、岐阜県内で初受賞、特例子会社として全国初受賞の快挙となります。

『はっぴいまるけ』とは[はっぴい]Happy・楽しい・幸せ、[まるけ]岐阜井で～だらけ・～まみれ、フランス語の Marché（マルシェ）＝市場を意味し、Win（勝ち）の裏には Lose（負け）が存在する Win-Win の関係ではなく、Happy-Happy な関係の構築を目指しています。

『まるけふあ〜む』が目指すもの

農を通じた身体づくりをテーマに、すべての人たちが農作業などを行う事によって、豊かな心と身体を育む取り組みです。自分のペースで土と向き合い、語り合うことによって農の癒し効果を感じてください。毎回農作業後は、さまざまなお楽しみイベントや交流なども企画しています。主人公はみなさんです。みなさんが“はっぴいまるけ”になる、そんな農園になります。

障がいの程度について

地域共生社会の実現を目指す当社は、障がいとは個性であり特性だと考えています。障がいの有無・ジェンダーも含め、その程度は問いませんが、障がい者である社員もスタッフとして参加しており、全員の作業に個々に行う対応は致しません。作業に関して遂行に問題がある場合など、保護者の方にご同行をお願いする場合がございます。当社作業療法士、ジョブコーチ、障がい者職業生活相談員が作業を指導します。

その他

稲・野菜の生育状況、イベント当日の気象状況等によって予定が変更になる場合があります。参加者には後日LINE@により随時情報発信を行いますので、必ず登録をお願い致します。

JA全農岐阜

苺研修施設 障がい者と連携



苺の収穫



まくわうり収穫

岐阜県と連携した 農福バスツアー



JAぎふ真正支店

非農家向け収穫体験
まるけふあ～むと同時開催（共生、交流）



まくわうり事業

農林高校と一緒に



宮内庁に献上



今後の展望(有機の里)



今後の展望(有機の里)

4.開設場所

有機JAS認証を取得する場合、ドリフト（散布対象の作物以外に農薬が飛散すること）や水利等の条件を満たす団地を形成して取り組む必要があります。また、研究や実証、生産者育成を図る施設とするためには、一定の面積が必要になります。

令和5年3月をもって閉鎖した岐阜市健康ふれあい農園の跡地は、上記を満たす土地であることから、候補地としました。

岐阜市健康ふれあい農園跡地（岐阜市安食6丁目）



岐阜市健康ふれあい農園

農園面積：35,793㎡
(田・畑：31,424㎡、山林：4,369㎡、
岐阜市提供資料より)

農地所有者との利用権設定・賃貸借契約を締結予定

生産エリア

区域一帯で有機JAS認証を取得
・供給先
直売所・学校給食・地域飲食店等

管理エリア

- ・パイプハウス
- ・土づくり資材置き場



P.6

広大な農地 . . .



B型事業所との連携

労働力として戦力化

施設外就労として労賃の支払い
貴重な労働力
リハビリ効果
健全者も刺激
やりがい
切出しによる明確化



岐阜刑務所との連携

出所前収監者の農業体験

出所後の就農希望

リハビリ効果

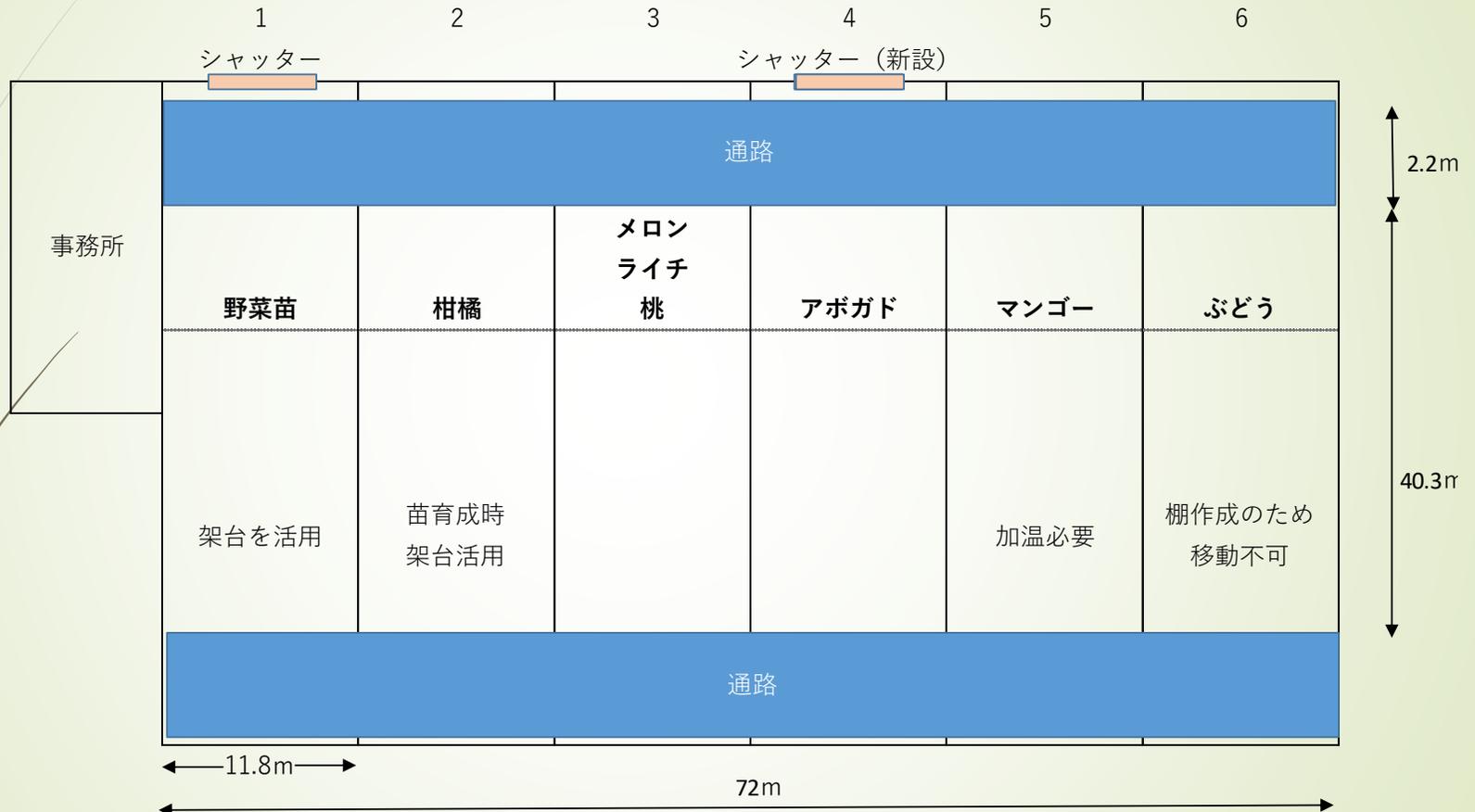
今後の展望



方県ハウス再生事業

JAぎふ遊休資産のガラスハウス再生事業

栽培計画



1区画 (栽培面積) : $40.3\text{m} \times 11.8\text{m} = 475\text{m}^2$ (4.75a)

通年雇用・温暖化に向けて

ユニバーサル体験農園の効果

- 県普及所とJAとの連携により細やかな営農指導を受けられる
- 連携による効果（岐阜農林高校、B型事業所など）
- 労働力として
- 様々な人との交流（障がい者、地域准組合員、観光農園体験者、JA全農、JAぎふ真正支店、一般ボランティア、まるけボランティアJA職員、支援学校実習生、県立岐阜農林高校、B型事業所、刑務所など）